

日本各地の工芸が 新しい日常を生む

各地で受け継がれてきた経済産業大臣指定の伝統的工芸品の種類は二三品目にも上ります。「伝統工芸 青山スクエア」は、そのうち二〇〇種以上もの工芸品が一堂に会するギャラリーです。同店のオンラインショップも、ページ内で紹介したテーブルウェア類をはじめ、インテリアアイテムやファッション小物まで、実にバラエティ豊かな品揃え。自宅に居ながら、日々の生活を美しく彩る工芸品を見つけることができます。



伝統工芸 青山スクエア

東京都港区赤坂8-1-22 1階
☎03(5785)1301 ㊟11時～19時
無休（年末年始を除く）
最寄駅／青山一丁目駅徒歩3分



横瀬多美保さん

テーブルコーディネーター、インテリアスタイリスト。
女性誌や料理本、百貨店のディスプレイなどのスタイリングで活躍。家庭画報.comの「『カジュアル・リクス』に暮らす」でも、工芸品を使った提案をしている。



ハッとするほどの薄さが 食卓に洗練をもたらす

技術の粋を感じさせる要素の一つが“薄さ”。色彩を抑えたモダンなコーディネートの中で、削ぎ落とす引き算の美学を追求した職人技が精彩を放つ。センターピースにした波佐見焼「花入」7万円。洋皿に重ねたのは、山中漆器「うすびき7寸皿」9000円と、三川内焼「平戸白磁碗皿(柄付)」2万円。シャープなラインの大阪唐木指物「黒檀 五角箸7寸」6000円。



日本の美意識「ミニマム」を象徴する 応量器でアジアンティータイムを

元来、禅僧が食事をする必要最低限の器として作られた応量器は、時代を超えた普遍的な美を感じさせる道具。葉を敷いてお菓子などを盛ってアジア風の雰囲気を楽しむのも一案。写真左上のように、大小6個がぴったりと入れ子になる精緻なつくりで、棚の一角に飾りながら収納もできる優れたもの。朱と黒の輪島塗「応量器」各18万円。

経済産業大臣賞 越前 陶・漆・紙 司辻健司

平安時代末期から歴史を紡ぐ福井県の越前焼に、同地域の工芸品である漆と和紙を合わせて生まれた、斬新な質感が魅力のカップ。各1万5000円。



内閣総理大臣賞 網代編セカンド バッグ 細川秀章

細く割った竹を編み上げる京竹工芸の洗練された技が光る一品。和服はもちろん、洋装とも調和し、男女を問わず使えるモダンなデザイン。8万円。



平成最後の全国
伝統的工芸品公募展
受賞作品が決定！
全国各地の、工芸品製作の技を駆使した作品が集まる「全国伝統的工芸品公募展」。入賞作品は、どれも今の暮らしに取り入れたいくなるセンスとアイデアに満ちています。